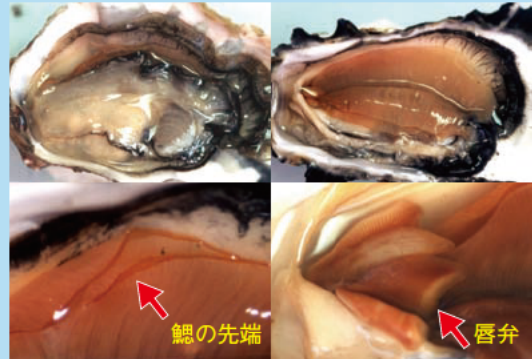
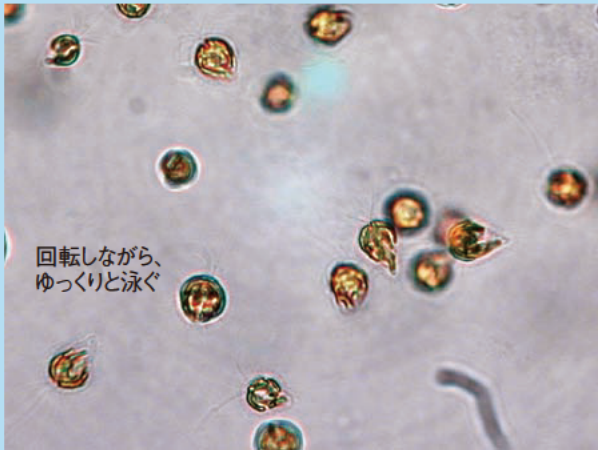


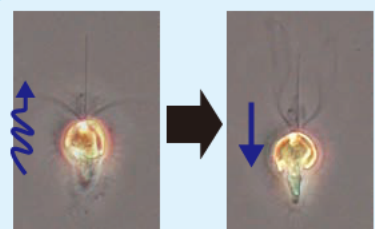
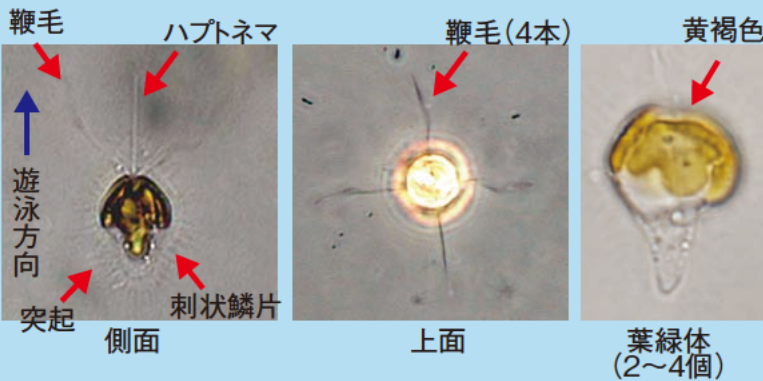
クリソクロムリナ クアドリコンタ(ハプト藻)

(*Chrysochromulina quadrikonta*)

動画



クリソクロムリナで鰓が茶褐色に着色したマガキ (鰓の先端や唇弁の内側が特に濃く着色する。)



クリソクロムリナの特徴的な動き

鞭毛を後方に反らした状態でハプトネマが伸びる方向に回転しながらゆっくりと泳ぐが、時々、反らした鞭毛をもどす力で反対方向に動く。

大きさ 長さ10~25 μ m、幅10~18 μ m

形態 色は薄い黄褐色。細胞はほぼ球形で、後端に突起をもつが、突起は不明瞭な場合もある。細胞の前端から4本の鞭毛と1本のハプトネマが伸びる。ハプト藻の仲間で鞭毛を4本もつものは他になく、この種の特徴である。細胞の表面は、刺状鱗片(しじょうりんぺん)と呼ばれる棘に被われている。黄褐色の葉緑体を2~4個もつ。

動き 鞭毛を後方に反らした状態で、ハプトネマが伸びる方向に、回転しながらゆっくり泳ぐが、時々、反らした鞭毛をもどす力で反対方向に動く。

漁業への影響：マガキの着色現象の原因となる。マガキの鰓を茶褐色に変色させ、商品価値を低下させる。鰓の着色が解消されるまでに2ヶ月以上もかかることがあるため、一度、鰓が着色すると被害が大きい。鰓が着色したマガキの Maus 試験(麻痺性および下痢性貝毒の検査)で毒性は検出されなかったことから、食用には支障はないと考えられる。

漁業被害：平成13年1~3月にかけて伊勢湾口(鳥羽市)の養殖マガキが着色し、出荷の自粛が行なわれた。

発生海域：伊勢湾~熊野灘沿岸

発生時期：1~12月(周年)